

諏訪盆地北西部の御岳第一テフラ高度分布から推定された糸魚川-静岡構造線活断層系の変位

井口豊(生物科学研究所)

Displacement of active faults along the Itoigawa-Shizuoka tectonic line estimated from the altitudinal distribution of Ontake Pm-1 tephra in the northwestern part of the Suwa basin

Yutaka Iguchi (Laboratory of Biology)

日本活断層学会 2019 年度秋季学術大会, 講演予稿集: 44-45.

大会予稿集は, 日本活断層学会学術大会のウェブページから入手できる。

<http://jsaf.info/html/meeting/index.html>

連絡先:

井口 豊

〒394-0005 長野県岡谷市山下町 1-10-6 生物科学研究所

iguchi.y@lab.ivory.ne.jp

諏訪盆地北西部の御岳第一テフラ高度分布から推定された
糸魚川-静岡構造線活断層系の変位
井口豊(生物科学研究所)

Displacement of active faults along the Itoigawa-Shizuoka tectonic
line estimated from the altitudinal distribution of Ontake Pm-1
tephra in the northwestern part of the Suwa basin
Yutaka Iguchi (Laboratory of Biology)

はじめに

諏訪盆地北西部，塩尻峠付近から岡谷市街地にかけて，南南東へと下る大川の谷には，糸魚川-静岡構造線に伴う活断層が推定されている（澤ほか，2007；井口，2013）。大川の東，数百 m を，大川に平行して流れる塚間川沿いの岡谷断層の調査は進んでいるが，大川沿いの活断層は，ほとんど調査されていない。本研究では，大川の谷を跨ぐように分布する御岳第一テフラ（0n-Pm1）の分布高度の違いから，大川沿いの活断層の変位量を推定してみた。

御岳第一テフラの露頭分布

図 1 に，御岳第一テフラの露頭を調査した 3 地点を示す。このうち，A（勝弦峠の北西 380 m）と C（国道 20 号沿い，塩嶺工業団地の東入り口）では，御岳第一テフラを直接確認した。一方，B（内山霊園の最上部）では同テフラを直接確認できなかったため，A，B 地点の地層を参考にして，塩嶺層とそれを覆うローム層の境界の 2 m ほど上部に同テフラがあると推定した。



図 1. 御岳第一テフラの露頭調査地点。
A: 勝弦峠の北西 380 m, B: 内山霊園の最上部, C: 国道 20 号沿い，塩嶺工業団地の東入り口。背景地図は国土地理院の電子国土 Web システム提供。

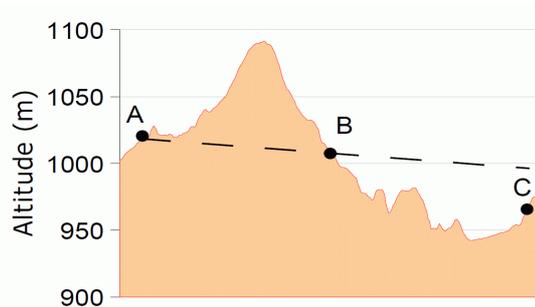


図 2. 御岳第一テフラの分布高度。A: 勝弦峠の北西 380 m, B: 内山霊園の最上部, C: 国道 20 号沿い，塩嶺工業団地の東入り口。国土地理院の電子国土 Web システムの地形断面図使用。

御岳第一テフラの分布高度

図 2 に，A，B，C の 3 地点における御岳第一テフラの分布高度を地形断面図と共に示した。井口（2019）は，諏訪盆地北西部に向かって，同テフラの分布高度が上昇することを示した。しかしながら，それを考慮しても，A，B 地点に比べて，C 地点の同テフラの高度低下が著しいように見える。単純に見積もると，C 地点は 20 m 程度，盆地側（東側）に落

ち込んでいるように見え、この地点付近の大川の谷の深さにほぼ相当する。図 3 に示すように、C 地点では、同テフラを切る多数の正断層（最大落差 5 m）が認められている（井口，2013）。糸魚川-静岡構造線活断層系の中でも、大川の谷沿いの活断層が、諏訪盆地西縁を画する断層となっているのかもしれない。



図 3. C 地点で見られた御岳第一テフラを切る多数の正断層.

引用文献

- 井口豊（2013）長野県岡谷市の塩嶺西山地域における断層と地すべり地形．日本活断層学会 2013 年度秋季学術大会講演予稿集：60-61.
- 井口豊（2019）諏訪盆地西部における御岳第一テフラの高度分布．日本地理学会発表要旨集 96（2019 年度日本地理学会秋季学術大会）：124.
- 澤祥ほか（2007）糸魚川-静岡構造線活断層帯中部，松本盆地南部・塩尻峠および諏訪湖南岸断層群の変動地形の再検討．活断層研究 27：169-190.